



# 特集：図書館の連携事業

インターネットやモバイル端末の普及により様々な情報に手軽にアクセスできるようになり、私たちを取り巻く情報環境は大きく変化しました。情報媒体の主流が紙ベースからウェブベースへとシフトする中、図書館もその役割を変え、貸出中心のサービスから課題解決型の図書館へと変化してきています。今では多くの図書館が課題解決支援サービスを行っており、そのテーマはビジネス、医療、健康、農業、地場産業など多岐に渡ります。

図書館は利用者に直接、専門知識やノウハウを伝えることはできませんが、あらゆる分野の資料を収集し、提供することができます。また、地域のすべての人に開かれており、誰もが気軽に立ち寄ることができる場所です。図書館が持つこれらの特徴は、地域の様々な団体・組織などと連携することで相乗効果を生み、利用者により高い付加価値のついたサービスを提供できる可能性を秘めています。今回は県内の図書館が実施している様々な連携事業を特集しました。

## 岩手県立図書館の連携事業

<岩手県立図書館>

連携・協力という、何かとても大きなことをしている印象を受けますが、事業を組み立てて予算を要求するという大げさな話にしなくとも、お互いの長所を提供し合う、それぞれが持つつながりを活かして相乗効果を期待するなど、日常的なレベルでの連携の形もあります。例えば、資料展示に他機関から借用したモノを一つ加えるだけで、展示はより分かりやすく目を引きつけるものになります。図書館には多くの情報が蓄積されており、それらを地域社会や他機関へつながるきっかけとするのが連携事業の意義ではないかと思えます。

### 1. 他施設等から図書館へ

#### (1) 連携展示 [JICA 東北岩手デスク]

岩手県立図書館の入居する「いわて県民情報交流センター」（以下、アイーナ）は、今年度で開館から 11 年を迎えます。アイーナの入館者の半分ほどは図書館に来館しますので、他の施設もあわせて活用してもらえるよう、レフェラルサービスの一環として、アイーナの各施設を紹介するチラシを作成したり、協力してイベントを実施するなどの取り組みを行っています。

その一例として、独立行政法人国際協力機構（JICA）東北岩手デスク（以下、JICA）からの協力依頼による、国際平和に関する資料展示をご紹介します。

JICA では、青年海外協力隊などのボランティア事業を展開しており、毎年春と秋に募集を行っています。このタイミングに合わせてボランティア事業を含めた JICA の活動を知る機会を提供したいとのことで、連携展示実施のお話を持ちかけていただきました。

JICA からは事業紹介のパネルや海外でのボランティア活動の様子を写した写真パネルを提

供していただき、そのほかにも各種パンフレットや青年海外協力隊の秋季募集要項などを設置しました。これらは期間中たくさんの来館者の方にお持ちいただき、追加が必要なものもあるほどでした。図書館としても国際平和に関する資料を効果的に紹介することができ、また、興味を実際の活動につなげるきっかけとなる情報も提供することができましたので、お互いの長所を活かしあった展示になったものと思います。

JICA 担当職員からは、図書館というたくさんの方が来館する施設で協同して取り組みを行うことで、自分たちの活動を多くの人に知ってもらう機会ができ大変ありがたい、との声をいただきました。また実際に、図書館で募集要項を見てボランティア説明会に参加した方もいたとの報告もいただいています。



連携展示の様子

#### (2) 見学会の実施 [男女共同参画センター]

アイーナ内には、図書室を独自に備えている施設がいくつかあり、その一つに岩手県男女共同参画センターがあります。普段一緒に活動する機会がなかなかありませんので、連携の第一歩として、センターの図書コーナーを見学する機会を設けました。こちらも発端はセンターからの申し出で、センターの図書コーナーの利用をもっと増やしていきたいので、図書館利用者にセンターに図書コーナーがある事を案内していただけないか、との相談を受けたことがきっかけでした。

男女共同参画センターでは資料を購入する際、予め県立図書館の蔵書検索をした上で、蔵書が重複しないよう選書しているため、限りある予算の中で互いに資料を補い合える関係にあります。これは図書館の側から見れば、未所蔵資料を提供する際に、申込手続きや取り寄せ後の再来館などの手間を省き、すぐに目的の資料を案内することができるということでもあります。

お互いがお互いの機能を知り、そこから生まれる利点を認識することで、相互の利用促進につながる取り組みが生まれるのだと思います。

### (3) イベント実施での協力 [立教大学]

平成28年12月に「哲学対話」というイベントを実施しました。哲学対話は、参加者が円座になり、あるテーマについて自分の考えや経験を話していただき、対話を通じてテーマへの考えを深めていただくイベントです。

開催のきっかけは、立教大学の教授からの協力依頼でした。この方の研究テーマは、哲学対話を多世代が集う図書館等で実施することで“地域創生に活躍する人を育てる”という点にあり、これは“生涯学習の場”という図書館の設置目的にも重なってきます。また、元々、来館者同士のコミュニケーションを通じて図書館を盛り上げていければとの思いもありましたので、この点でも渡りに船の協力依頼でした。前例に捕らわれず様々な催事を実施することが、利用者層の拡大や新規サービスの構築につながっていくのだと思います。



「哲学対話」の様子

## 2. 図書館から他施設等へ

### (1) 展示物品の借用 [網張ビジターセンターなど]

当館では壁面埋め込みの展示ケースを使用し、年に7回ほど企画展を行っています。企画展を組み立てる際には、自館所蔵資料を展示するだけでなく、他施設が所蔵する物品やデータも活用し、図書館資料からだけでは得られない情報もあわせて提供するようにしています。

平成28年8月に開催した企画展「岩手の山々」では、網張ビジターセンターの協力を得て、昔のスキー板や登山用具など、山に関するグッズを展示しました。また、現在開催中の企画展「街道を歩く」でも、矢立や煙管入れなどの現物資料や写真データを借用して展示しています。

現物資料や写真を使用することで、ただ本が並んでいるだけよりもパッと目を引きましますし、それほど関心がないテーマでも、ちょっと覗いてみようかという気持ちになります。そしてその分だけ、関連資料を手にとってもらえる可能性が高まります。実際に、展示会場で熱心に本を読む姿が見られたり、普段あまり動かない本が借りられたりすることがしばしばあります。



企画展「岩手の山々」  
網張ビジターセンターから借用した現物資料

博物館や資料館などは、「この展示を見るため」という明確な目的を持って訪れる場所ですので、ある意味では図書館よりも敷居が高いと言えます。そのような中、たまたま訪れた図書館で展示をご覧になり、提供元の施設に興味を持ち実

際にその施設を訪れてみる、というように、他の地域情報への橋渡しにもなればと思います。

## (2) 展示関連イベントの実施【日本盲導犬協会】

平成28年12月から1月にかけて開催した企画展「犬と生きる ～ともに歩んだ1万年～」の関連行事として、日本盲導犬協会の協力を得て、盲導犬の役割や育成方法を知り、実際に歩行体験をしてみるイベントを実施しました。

この企画展は“長い歴史の中で犬と人間とがどう関わってきたか？”をテーマとしており、「社会で活躍する犬たち」という小テーマの中で盲導犬についても触れていました。そこで、犬と人との関わりを分かりやすい形で提示し、展示内容への理解を深めていただこうと企画したものです。一人の方が一生の間に会う本の数は限られていますので、各方面の専門の方々の力も借りながら、あるテーマの資料に付加価値を付けて提示することで、興味の幅を広げるきっかけにしていだければと思います。

なお、このイベントには当日、実際の盲導犬ユーザーの方が飛び入りで参加され、ご自身の経験をお話いただくという嬉しい場面がありました。盲導犬のイベントの前々月、視聴覚障がい者情報センターと共催でバリアフリー映画会を開催したのですが、この時に盲導犬のイベントがあることを告知しており、そこで興味を持って参加されたそうです。思わぬところで連携の効果が現れた出来事でした。



企画展関連イベント「盲導犬がやってくる！」

## 3. 連携から生まれる新たな取り組み

### (1) ホン×モノ コラボ【岩手県立博物館】

現在図書館で開催している企画展「街道を歩く」の開催に当たっては、複数の博物館・資料館から資料を借用しています。また逆に、図書館から博物館に資料を貸し出すことも多々あり、お互いの展示担当者が借用手続きの傍ら話をする機会もあります。こういった担当者同士でのコミュニケーションの中から生まれたのが「ホン×モノ コラボ」という企画です。

「ホン×モノ コラボ」では、県立博物館と県立図書館の展示をまわって景品をもらう「スタンプラリー」、そして、県立博物館で開催中のテーマ展「絵画でたどる 19世紀岩手の風景」に関連させた資料展示「日本の風景画と出会う」を実施しています。4月には双方の展示担当者によるコラボギャラリートークも予定しており、お互いの利用促進が図れればと期待しています。



ホン×モノ コラボ  
図書館での資料展示の様子

### (2) ビジネスプラン作成講座【日本政策金融公庫】

当館では平成23年度に「ビジネス支援コーナー」を開設し、その年から現在に至るまで継続して、日本政策金融公庫との共催イベント「創業支援セミナー」を開催しています。日本政策金融公庫は創業資金の融資も行っており、起業に関するノウハウを豊富に持っています。専門機関が持つプログラムを通じてより実践的な知識を身に付けていただこうと開催しているもの

で、毎回熱い盛り上がりを見せるセミナーとなっています。

今年度は上記セミナーの開催に加え、新たに「高校生のためのビジネスプラン作成講座」を開催してみないかとのお話をいただきました。政策金融公庫では平成25年度から「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を開催しているのですが、県内でもこのグランプリに参加している高校がいくつかあり、平成27度は遠野緑峰高校の生徒が優秀賞を受賞しています。また、グランプリへの参加を促すため、高校向けの出前講座なども行っています。

これまでの共催実績もありましたし、図書館として高校生の利用を伸ばしていきたいという思いもありましたので、この講座を夏休み期間中に開催することにしました。結果、講座自体への参加者数こそ多くなかったものの、興味を持って出前講座を申し込んだ高校があるなど、今後の広がりには期待が持てそうな反応がありました。このイベントも、これまでの連携があったからこそ実現したものであったと思います。



高校生のためのビジネスプラン作成講座  
受講中の生徒たちの様子

ここまで紹介してきたもの以外にも、様々な機関・団体と連携し、利用者に多様な情報を提供できるよう努めています。例えば9月の「健康増進普及月間」、10月の「乳がん月間」に合わせ、岩手県保健福祉部から関連グッズやパンフ

レットを提供してもらい展示を行う、健康や医療などに関わる資料を並べている「くらしコーナー」に、がんの専門機関等からいただいたパンフレットを設置するなど、日常的な取り組みの中に各機関・団体からの協力を取り入れています。



これまでの連携・協力を振り返って見ると、行政も含め、各機関・団体は自分たちの取り組みを広く知っていただくための機会や場所を求めているのだと感じます。土日祝日も開館し、特段の目的がなくとも利用でき、老若男女問わず誰もが気軽に訪れる図書館という場所は、様々な情報を発信する場所としても適しているのだと思います。もちろん、図書館としても連携・協力によるメリットは決して小さくはありません。互いの利点を活かすことで、利用者、地域、行政問わず皆さんから“図書館は役立つ施設である”ことを認知してもらうことが、今後の図書館の発展に繋がるのだと思います。

## 実はすごい!! 石鳥谷の『匠』展

＜花巻市立石鳥谷図書館＞

この事業は、一つのビジネス支援でもあり、地元の人材発掘事業であるとの思いで、平成26年度から始めた企画展示事業です。ジャンルを問わず、技術を持ってそれを職業とし、地元石鳥谷町内で頑張っている方を月ごとに一人取り上げ、その方の仕事や人物を紹介しています。今年で3年目を迎え、紹介してきた匠の方々は20名になりました。

### 1. 事業を始めたきっかけ

この事業を始めるきっかけは、自分自身が石鳥谷図書館に異動後、まだまだ知らないことばかりで、もっと人や地域を知りたいと思ったこと、そして、図書館として広くそのような人材を探して紹介したいという思いからでした。図書館に勤める他の職員も、ほとんどが地元石鳥谷出身・在住ではないことから…

- ① 石鳥谷を知ろう！
- ② 人材を見つけ出そう！
- ③ 地域と連携をとっていこう！

…という3つの試みでもありました。

その方の人となりや仕事に光を当て、“石鳥谷の匠”として地域の方々にご紹介していくことで、お仕事の励みにしていただき、店舗に販売が出たりすればうれしいことだと思い、この事業を実施しています。石鳥谷にお住まいの様々な方々にスポットを当てて実施してきた結果、一つの“石鳥谷人材バンク”的なレファレンス資料ができあがりつつあります。

### 2. 事業を実施して

この企画を始めた当初は、具体的に何処に、どのような仕事を持っている方がいらっしゃるのか分からず、まったくの手探り状態でした。

最近、このコーナーもすっかり定着しつつありますが、時には「市の職員が何をしに？」と、疑わしく思われたこともありました。

コーナーの構成は当館職員が順番で担当しており、匠として取り上げる人材の発掘、企画書の作成、ご本人への連絡と取材、資料作成までを行います。小さなコーナー展示ですが、ご本人から借りてきた作品や資料、ご本人やお仕事の紹介パネルを図書館職員が作成し、その分野の関連資料、図書館が所蔵している関連本なども展示し、貸し出しています。

### 匠の紹介

さとう けんごさん  
1971年6月8日生まれ



盛岡で生まれ、引っ越しを経て石鳥谷へ。  
その後仕事のため東京へ出て、当時あまり広まっていなかったエスプレッソと出逢います。「これは！」とラテアートに惹かれた佐藤さんは、情報の少ない中、独学でエスプレッソやラテアートについて学び、マシンの購入など準備を整え、カフェを開店します。そうして働いた中でバリスタとしての腕を磨かれてゆきました。

現在は石鳥谷へ戻り、バリスタ兼焙煎人（ロースター）として、お客様に喜んでもらえるように、安く美味しいコーヒーづくりを日々熱心に探求し、自信を持って提供できる焙煎豆づくりをしています。焙煎した豆はインターネットなどを用いて全国に向けて発信しています。

皆さんはコーヒーについてどう思っていますか？  
コーヒーをなんだか難しいものだと思って敬遠してはいませんか？ブラックで飲むのが怖いわけでも、砂糖やミルクを入れるのが怖いというわけではありません。海外に目を向けてみると、むしろそのままブラックで飲んでいる国は少なく、砂糖やミルクを入れることが一般的なこと、イタリアではエスプレッソにスプーン2～3杯（！）の砂糖を入れる人も多く、強った砂糖もスプーンで食べてしまうそう。

どことなくJazzなイメージのあるコーヒーですが、もっとPops!な飲み物としてもっとたくさんの人に手軽に楽しんでもらいたい！そんな佐藤さんの思いが詰まっている焙煎を紹介します。

…あなたもコーヒーを楽しんでみませんか？

実はすごい!! 石鳥谷の匠展 No.4 (コーヒー屋さん)  
匠の紹介パネル

展示に際しては、特に副タイトルにこだわっています。取材でご本人にお会いした後に決めるのですが、仕事の内容、仕事への姿勢、こだわりやお人柄など、その方のことが一目でわかるよう副タイトルに凝縮させます。展示をご覧になった方に伝わりやすく、すぐイメージしていただけるようにという思いで考えており、いわば本の帯のようなものです。



実はすごい!! 石鳥谷の匠展 No.7 (パン屋さん)  
店内取材時の様子

コーナーにはご本人の紹介パネル以外にも、その分野に関連する資料を展示しています。例えば、現在開催している建具職人の方の展示であれば、木の特性についての資料や、建物に適している木の種類について書かれた資料といった具合です。関連資料を展示することで、ほんの少し知識を広げていただくこともできます。木の特性に興味を持たれた方など、じっくりと見入っている姿もよく見かけます。



実はすごい!! 石鳥谷の匠展 No.20 (建具屋さん)  
コーナーの様子 (【写真上】表面 【写真下】裏面)

また、ある小学校では匠展で展示した資料のファイルを借りて行き、「地元の職人さんたち」ということで、授業で紹介していただいた事もあります。このように利用されることは、私たちの励みにもなります。

展示期間についてですが、最初の頃は月替わりで1ヶ月ごとに入れ替えていました。しかし、図書館利用者の方から「見に行こうと思っていたらもう終わっていた、もう少し長くやって欲しい」とのご要望をいただき、また職員も1ヶ月ごとの展示だと準備が追いつかない状況でしたので、今は2ヶ月に1回のペースで開催しています。

これまで雑貨、豆腐、藍染め、コーヒー焙煎、羊毛(フェルト)、苺、パン、つるし雛、和菓子、蕎麦、美術評論・作曲、フラワーアレンジメント、林檎、アクセサリ、有機農法野菜・養蜂、陶芸、花卉(りんどう)、酒米、養豚、建具と、様々な分野の方々を取り上げてきました。石鳥谷地域に限定して行っている展示ですので、そろそろ人物を探すのに限界を感じてきています。しかしその反面、花巻市という広い範囲ではなく石鳥谷地域に絞っての企画展だからこそ、石鳥谷に根ざした資料を作り上げることができているのではないかと考えています。

### 3. 成果と今後の取り組み

これまで匠として取り上げた方々には、取材を通じお互いに距離が近づいたことで、資料提供でご協力いただくだけでなく、図書館利用者にもなっただいただいています。また、図書館の仕事を理解していただける良い機会となったことで色々な面でメリットが出てきました。例えば、現在開催している匠展「発想の匠 木の特性を知りつくし自在に操る」では、建具職人さんに親子で楽しめるワークショップをご指導いただくことになっており、こだわりの素材で灯籠や椅子などを製作してもらう予定です。

最近「匠展では是非紹介して！」と匠をご紹介くださる方や、展示を見た方から次の匠展を楽しみにしていると声をかけていただくこともあります。また、図書館で匠展をご覧になり実際にお店に足を運ぶ方が増えたと、うれしいお話を聞くこともありました。

次年度は地元の障がい者施設と連携し、ワークショップなども開催していく予定です。施設にもポリシーを持って仕事をされている方たちがおりますので、その方たちにスポットを当てていきたいと思っています。

「実はすごい!! 石鳥谷の『匠』展」は、石鳥谷図書館のひとつの財産です。今後も継続的にこのコーナーの充実を図っていくとともに、機

会あるごとに一堂に会し、取り上げた方々を再認識していただけるよう、また匠として取り上げた方々が忘れられぬよう展示以外にも活用していきたいと考えています。



### 実はすごい!! 石鳥谷の「匠」展 開催一覧

年度	No.	副タイトル	お仕事ジャンル等	開催期間
H26	1	伝統工芸をハンドメイド雑貨に	雑貨屋 (こぎん刺し等)	6/4 - 6/29
	2	伝統技術で藍を建てる	藍染	7/2 - 7/30
	3	時代を経ても変わらぬ味を! 守り続けた技術	豆腐屋	8/2 - 8/31
	4	コーヒーの味と香りを生む焙煎	コーヒー豆焙煎	9/9 - 10/31
	5	彩り豊かなひつじのぬくもり	フェルト (羊毛)	11/5 - 11/30
	6	みんなを幸せにする甘い香りの赤い果実	いちご農家	12/3 - 12/27
	7	酵母を育みパンを愛でる 美味しいパンづくり	パン屋	1/4 - 2/1
	8	ひと針ひと針に願いを込めて つるす雛への想い	つるし雛	2/4 - 3/1
	9	四季のうつろいととも に 日々の暮らしに優しく寄り添うお菓子	和菓子屋	3/4 - 3/31
H27	実はすごい! 匠展 振り返り展			4/15 - 5/24
	10	つるつる、するする喉越しの醜脚味を堪能する	そば屋	6/3 - 8/2
	11	ヨーロッパの芸術と日本を繋ぐ架け橋	美術評論家・作曲家	8/5 - 9/27
	12	託された想いを花に吹き込む Magician!	花仕事	10/7 - 12/15
	13	テルりんごが未来を切り開く? 手塩にかけたりんごに夢を馳せ	果樹農家(りんご)	12/16 - 1/31
	14	世界にひとつだけの小物たち 大切に使いたくなる繊細な手仕事	アクセサリー(レジン・樹脂粘土)	2/3 - 3/27
H28	15	余分な物は使わずに『あたりまえ』のものを	農業(有機農法)・養蜂	4/2 - 5/29
	16	私たちの生活にずっと溶け込む暮らしを彩る器たち	陶芸家	6/2 - 7/24
	17	夏の訪れを告げる清楚で可憐な紫のさや風	花卉農家(リンドウ)	8/3 - 9/25
	18	さやさやとゆれる稲穂に想いを託して	農業・酒米づくり	10/5 - 11/27
	19	命のサイクルを見守って 40年! 愛情をかけてともに生きる	畜産業(養豚)	12/2 - 1/29
	20	発想の匠 木の特性を知りつくし自在に操る	建具(木工)	2/2 - 3/24

## 洋野町種市図書館の連携事業

＜洋野町立種市図書館＞

洋野町立種市図書館から、当館で実施した3つの事例をご紹介します。

### ＜1例目＞

#### 中学校+読書ボランティア(読み聞かせ)

#### +図書館+保育園

図書館を含め4つの団体が連携した事例です。種市中学校の図書委員会（1年生から3年生で構成される約30名）から、委員会の活動として、保育園に行って読み聞かせ会をやりたいとの相談を受けました。そこで、図書館としては、おはなし会の企画と運営についてアドバイスできますよとお話しし、読み聞かせの指導については図書館と、活動の盛んな読書ボランティア「ききみみずきん」に、実演と指導をやっていただけるよう段取りをしました。おはなし会を実施する保育園は、移動図書館を利用している、中学校の最寄りの、みどりが丘保育園にお願いすることができました。

おはなし会はクリスマスにあわせて開催することになりましたので、まずは夏休み期間中に、おはなし会で使用する本の選書、ゲームや手遊びは何をするか、プログラムの順番はどうするか等の企画を練り、読み聞かせの講習会も2回実施しました。講習会の指導は読書ボランティアさんにお任せし、もちろん、図書館職員も一緒に頑張って勉強しました。



「ききみみずきん」による おはなし会の講習の様子

また、クリスマスの時期なので、「もっと保育園児を喜ばせたい」ということで、羊毛フェルトでマスコットを作って園児たちにプレゼントすることも決めました。指導は図書館講座開催で腕も上がってきている私が務めました。男子も一生懸命取り組んでくれました。

委員会の先生が特にとお話ししてくださったことがあります。学校になかなか出てこれなかった女子生徒が委員会の時には顔を出してくれて、羊毛フェルトのマスコット作りを黙々とやってくれたこと、また、自分から「持って帰って作ってきてもいいですか?」と言ってきたことに、やってすごく良かったなあと思った、というお話でした。できあがってきた作品も、細かな所まで意識の届いたかわいらしい作品でした。

男子生徒が作った作品も、配色やキャラクターものなど、男の子が喜びそうな作品になりました。中学生たちが、保育園児の喜ぶ顔を想像して黙々と、時に友達とわいわいさわぎながら作業する姿に、学校の授業では見られない年長者としての顔を見ることができたと、委員会の先生は満足顔でした。



羊毛フェルトで作ったプレゼント

保育園側からは、夏休みの間に園児と中学生の交流をしたいとの提案があり、読み聞かせ会に参加する中学生と一緒に保育園に行って園児と交流してきました。中学生の訪問に園児たちはとても喜び、年齢別のクラスごとに外で遊具

で遊んだり、おやつのお手伝いをしたり、一緒にお遊戯をしたりし、「次はクリスマスに楽しいことをたくさん考えてくるね」という約束をしました。中学生たちにとっては、園児たちが喜んで自分たちを受け入れてくれたことで、おはなし会への緊張や不安が格段にやわらいだということでした。また、おはなし会開催に向け、やる気も向上したことはいうまでもありません。園児にとっても、中学生にとっても、楽しい夏休みの一日となりました。



中学生と保育園児の夏休み交流会

この中学生の活動には、委員会の先生だけでなく、保育園の先生方、読み聞かせボランティアの方々、大人の方々の「中学生たちを育てよう」という温かいまなざしが絶えず感じられました。園児たちをお世話することで成長する中学生たち、中学生たちを支援・指導することで充実していく大人たちという、各世代の成長の構図を見ることができました。

いよいよ保育園でのおはなし会の日になりました。年長組、年中組、年少組3つのクラスに生徒たちが入り、おはなし会を開催しました。園児の年齢にあわせた絵本の選書はもちろんですが、園児の反応に対しての話し方・接し方を中学生が自然と実践していたことにとっても感心しました。人間関係では「相手のことをよく考えて行動する」ということが大事な理想とされますが、これを自然に実践するのはなかなかできないことだと思います。ここにも、交流の相

乗効果が出ました。中学生・保育園児にとっては嬉しい交流でもあり、関わった大人にとっては、次世代への期待や自分たちのやりがいを確認できたおはなし会の企画でした。



【写真上】中学生による おはなし会前のレクチャー  
【写真下】「クリスマスおはなし会」の様子

## <2例目>

### 小学校+図書館+他の小学校

#### +図書館を訪れた校外の人々

図書館を自分たちの研究発表の場として利用し、そのことが他の学校の児童・生徒や、図書館を訪れた校外の人々に影響を与えた例です。

角浜小学校の児童が、自分のおすすめの本についての展示を、図書館のロビーを会場に開催しました。まず、模造紙に自分の写真と本の紹介(ここがイチオシという部分を工夫した文体、デザインで書く)を書きます。そのそばには、図書の現物(図書館から提供)とボイスレコーダーを設置し、ボイスレコーダーからは、その本

についての説明が本人の声で流れてくるという仕掛けです。ボイスレコーダーの箱も工夫して作られており、展示は全て小学校の児童が行いました。

図書館は場所と本を提供しただけのような感じでしたが、公共の場所を不定期に、文化祭以外で使ったりすることってないよね、ということで、学校側からはとても好評でした。自分たちが授業で研究した成果を他校の生徒にも見てもらい、感想をもらうなどの反応を得ることができますし、見学に来ていた他校の児童・先生からは自分たちもやってみたいという声が多数あがりました。

小学生たちが図書館で展示をするという企画でしたが、そこに自分たちの活動が広く知られることや、その結果、良い評価を得られることといった付加価値が発生したのだと思います。学校との連携は、移動図書館や学校図書館の支援など、学校に入ってやるものと考えがちでしたが、学校から図書館に来ていただき、図書館のスペースを利用してもらうことでも連携ができるのだなと感じた企画でした。

### <3 例目>

**図書館講座 (ハンドメイド・癒し系)**

**+ 受講生 (後に資格をとり本業)**

**+ ハンドメイド作家・癒し系技術者 (企業)**

**+ 自治体商工観光課**

図書館講座を受講したことをきっかけにその世界にのめりこんだ方が何名かおり、その方々が集まって、毎年イベントを開催するようになりました。

ももとは“図書館にはすべての分野の本が図書館にあるんだよ”ということを知ってもらうために、月1回のペースで講座を開催していたもので、アロマ教室、ハンドメイド講座、リンパドレナージュ講座、ハーブティー講座、つ

まみ細工講座、アートバルーン講座、クイックリングクラフト講座、腸もみの講座などを、実用書の紹介とともに開催していました。女性層から大変人気のある講座でもありました。



そこから趣味が高じて本業にまでしてしまった方、また、技術が上がって商品として販売できるほどの力量になった方、そういった方々が集まって「ひろのColors」というイベントを開催するようになりました。

年に1、2回の開催ですが、他市町村からもそのイベントを見に来る方がたくさんおり、町の活性化に一役を買っています。今年度は、そのイベントに町の商工観光課も便乗し、「フリーマーケット」なども同時開催するようになり、たくさんの人が集えるイベントに成長しています。「ひろのColors」立ち上げまでの会合には、図書館の会議室を提供したり、事務局的なことでお手伝いをするなど積極的に支援しました。

最近の図書館は居心地の良いことや、憩いの場所、便利な場所としての側面にスポットライトが当てられがちですが、図書館は本来、教育施設です。また、自治体の歴史や資料を収集し、保存し、活用してもらい、過去から現在、現在から未来へ歴史と文化をつないでいく役目があることを忘れてはいけません。むしろ、図書館で働く方々には、その点を重視していただきたいと思います。図書館は「人を育てる場所」です。「時間を超えて、歴史をつなげていく場所」

です。

今回、連携事業として当館の三つの事例を紹介しましたが、各自治体、各図書館により、つながるべき人・団体・業界は異なると思います。また、一つの団体とだけでは、連携の相乗効果は薄いと思われます。良いことも、悪いことも、一つや二つだけの条件では発生しにくいことは経験上、おわかりと思います。どうぞ、たくさんの可能性のためにそれぞれの場所でチャレンジし続けていただきたいと思います。

予算がない、施設が古い、職員が少ない、上司の理解がないなど、様々な悩みや現実もあると思います。が、日々、やれることをしっかりやっていたら、必ず応援してくれる方々が出てきます。「本が好きだから司書になったし、人とかかわるのはちょっと苦手」とか、「行政職なのに図書館に来てしまった。専門的知識とやらも身に付けない」と思っている方。図書館は「人に対するサービス業」です。利用者が何を求めているか、何をしたら利用者のためになるかを日頃から、一生懸命考えてください。

図書館には全ての分類の本があります。これは、全ての分野の団体・人びとと連携できるということです。連携することで、相乗効果は必ず発生します。どうぞ、自分のいる図書館はどのような連携を、どのような場合にできるか考えてみてください。そして、連携の依頼があった場合、それに応えられるよう、日頃から準備をしていてください。連携を求められるということは、その図書館が期待されているということです。期待に応えることで、連携先はもとより、図書館自体にも希望の光が強くなることは間違いないでしょう。